



Fig. 1 各ページが鏡のできている2種類の絵本

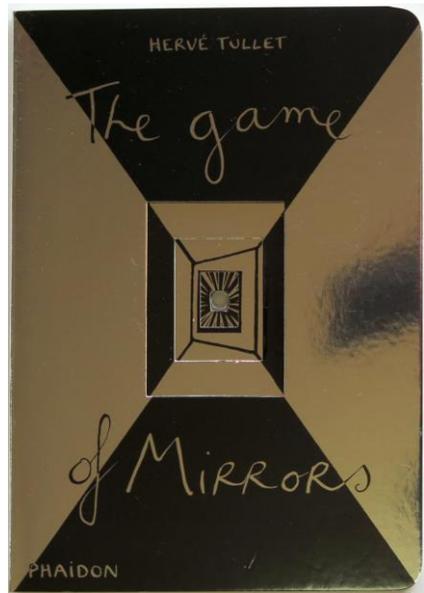


Fig. 4 表紙も内部も鏡のできた本

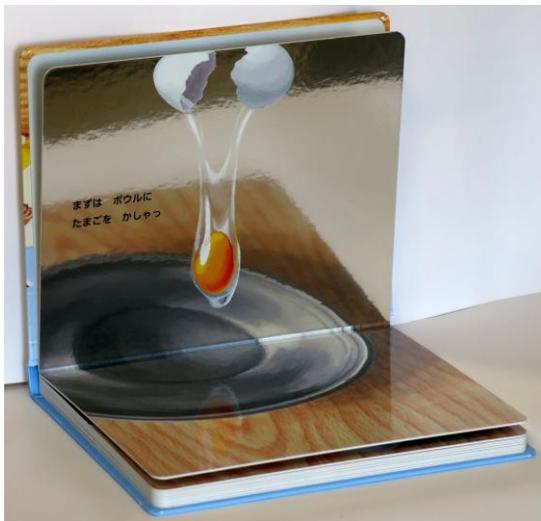


Fig. 2 卵をボウルに割り入れるページ



Fig. 5 穴の開いたページを開いた様子



Fig. 3 左と右のページに印刷された輪が 組み合わさるページ



Fig. 6 鏡の面に印刷されたグリー ティングカード

口絵解説

「画像からくり」
第29回 鏡と本

29 Mirrors and books

桑山哲郎

平面鏡は「水鏡」(みづかがみ)として人類が最初に出会った光学部品の一つであるとされているが、写真とのかかわりは、一眼レフカメラや二眼レフカメラで光路を折り曲げる光学部品など重要な要素として使用されている。x-y-zの3軸直交座標系あるいは3角法や1角法の機械図面、土木や建築の図面に明るい方には、「空間内に配置された平面鏡は、鏡に垂直方向の座標値の符号を反転させる」というが十分理解されていると思うが、それ以外の方に対しては、適切な「実物」が十分理解されにくい点がある。このような鏡の働きを理解するのに適した、ページが鏡で作られている本を現在書店の店頭で見ることができるので紹介したい。

Fig. 1は、平面鏡による反射を見事に使いこなしている2冊の本である。書店の店頭で2冊揃って平積みされているのを見かけたので、その状態を再現してみた。タイトルはそれぞれ「かがみのえほん きょうのおやつは」¹⁾と「かがみのえほん ふしぎなにじ」²⁾である。

Fig. 2は、「きょうのおやつは」の帯に小さくみえているページを、実際に再現した状態である。正面に立ち上がっているページでは、鏡の上に落下中の生卵と、割られた殻が印刷されている。一方水平に配置されている鏡のページには、ボウルの手前の半分が印刷されている。正面のページに水平に印刷されているボウルが映り込んで円が完成する。このためまるで3次元の世界が目前に作り出されるように感じられる。この絵本ではこのような巧みな演出が次々と現れ、おやつが完成するまでを楽しむことができる。

Fig. 3では、半円形の虹が左右のページに印刷されていて、反対側のページに映り込む、どの見開きページも大変図柄が工夫されていて、見事な立体構成を楽しむことができる。同じ絵本作家の作品であるが、続編を期待したい。

さらに鏡の反射がすべてのページで貫徹している絵本がある。Fig. 4の“The Game of Mirrors”では、表紙から裏表紙まで、見える範囲のほとんどが鏡である。表紙を正面から撮影しようとする、カメラと撮影者の姿が映りこんでしまうので、撮影位置をずらして撮影した。

この絵本では、「穴のあいた鏡」という工夫で、見える像に変化を付けて演出している。表紙から1-2ページ目、3-4ページ目と順に小さくなる長方形の穴があげられている。Fig. 5は本文の2ページ目と3ページ目の見開きページの様子である。各ページに描かれた黒い線による線画と、穴から奥が見える効果が複合し、不思議な世界が作り出されている。3次元空間に形成された抽象絵画を楽しむ趣向の本で、どちらかというと大人向けの様である。このような趣向の絵本を手にするのは初めてであるが、作者は鏡を使いこなす技法に優れていると思われる。

直交した鏡の面に印刷をしている見事な作品として、最後にFig. 6のグリーティングカードを紹介したい。私がこのカードに出会ったのは、あるデパートのクラフトコーナーだった。少し暗くした売り場に、スポットライトを当てて置かれたグリーティングカードは、雪が降り、小川の周囲に雪が積もっている情景を見事に演出していた。写真は、カード表面の鏡面と白い印刷面が良く分かるように撮影しているが、作りだされた3次元の魅力的な世界を楽しむには、どうしても実物を手にする必要がある。

以上、2枚の平面鏡が作り出す効果を利用している、本とグリーティングカードを紹介した。いつか機会があれば、照明の効果を十分計算した会場で一堂に展示してみたいと考えている。

参考文献

- 1) わたなべちなつ, 「かがみのえほん きょうのおやつは」, 福音館書店 (2014)
- 2) わたなべちなつ, 「かがみのえほん ふしぎなにじ」, 福音館書店 (2014)
- 3) Hervé Tullet, “The Game of Mirrors”, Phaidon (2014)